



第351号

発行
浄土真宗
心光寺
奥原曇龍
倉敷市早高426
☎(086)420-1311



浅き夢見し



カット：本多絢子

春^{はな}たけなわの季節、気持ちも華やいでまいります。花の便りが相次ぐ今日この頃、皆様いかがお過ごしでしょうか。

晴^{しゅうしよく}れやかな入学式や入社式のシーズンですが、希望どおりに進学や就職できた人もあれば、希望どおりに行かなかった人もたくさんいらっしゃるのではなにかと思います。人生の夢や希望が大きければ大きいほど、失敗や挫折^{さつせつ}は付きものだから、涙を流しながら諦^{あきら}めず、夢に向かつて努力し続けて欲しいものです。

平成^{へいせい}二年一月号から始まった毎月号の『ともしび』も、平成三十一年四月号をもって、平成の元号^{げんごう}が終わるのは寂しいことです。平成の次の元号は4月1日に発表されますが、この原稿^{げんこう}を書いているときはまだ発表されていないので、愚僧^{ぐそう}はとても待ち遠しく感じています。

3月15日にニュージーランドのクライストチャーチのイスラム教礼拝^{らいはい}所で銃^{じゅうらんしゃけん}乱射事件^{じけん}が起き、約百人に及ぶ死傷者を出す同国史上最悪^{しじょうさいあく}のテロ事件^{じけん}が起き、愚僧^{ぐそう}は驚^{おどろ}いています。28才のオーストラリアの白人男性^{たいは}が逮捕^{たいは}されましたが、移民^{いみん}の人たちを侵略者^{しんりやくしゃ}と呼び、敵視^{てきし}したのは悲^{かな}しすぎます。テロと無縁^{むえん}だった国に衝撃^{しょうげき}は大きすぎますね。

衝撃^{しょうげき}といえ、3月21日に日米通算4367安打の大打者、米大

*心の悩み・信仰の相談は月曜日から木曜日の午前中に気楽にお電話下さい。

ーグ、マリナーズのイチロー^{がいやしゅ}外野手(45)が東京都内で現役引退を表明^{げんえきいんたい}したことです。どんな大打者も忍^{しの}び寄る年齢^{ねんれい}には勝^かてず、いつか引退^{いんたい}が待^{まち}っています。50歳までは頑張^{がんぢょう}って欲^ほしかったです。

昔^{むかし}の寺子屋^{てらこや}で、読み書きを教^{おし}えるときに使^{つか}われた「いろは歌」を皆様^{みなさま}ご存知^{ごぞんじ}でしょうか。「いろはにはほへと ちりぬるを わかよたれそ

つねならむ うゐのおくやま けふこえて あさきゆめみし めひもせず」と平仮名^{ひらがな}47文字を重^{かさ}ねることなく並^{なら}べて歌^{うた}にしたものです。漢

字^じを当^{あた}てるという意味^{いみ}が浮か^うかびあがってきます。「色^{いろ}は匂^{にお}えど 散^ちりぬるを わが世^よ誰^{たれ}そ 常^{つね}ならむ 有^う為^ゐの奥^{おく}山^{やま} 今日^{きょう}越^こえて 浅^{あさ}き夢^{ゆめ}見^みじ

酔^よいもせず」です。爛漫^{らんまん}と咲^さき誇る桜^{さくら}の花^{はな}の色^{いろ}と匂^{にお}いも、あつと言う^い間に、春^{はる}の嵐^{あらし}で散^ちって行くように、この世^よの成功^{せいこう}者^{しや}も、いつまでも変^か

わらずにその栄光^{えいこう}を保^{たも}ち続^{つづ}けられないと世^よの無常^{むじょう}を説^といているのです。が、イチロー選手^{せんしゅ}も年^{ねん}齢^{れい}の衰^{おとろ}えに勝^かてなかつたのです。「有^う為^ゐ」とは

迷^{まよ}いの世界^{せかい}のことで、自己^{じこ}中心^{しん}の考^くえ方^{かた}は奥^{おく}山^{やま}のように奥^{おく}が深^{ふか}くて峻^{げん}

しいという譬^{たと}えです。有^う為^ゐに對^{たい}して無^む為^ゐは覺^さりの世界^{せかい}を示^しし、あるものがあるがま^まま受け入^いれて穩^{おだ}やかに生^いきるのを無^む為^ゐとい^います。自^じ分^{ぶん}

の老^{おい}いや死^しを受け入^いれ、自己^{じこ}中心^{しん}の迷^{まよ}いの夢^{ゆめ}から覺^さめ、あるものをあ

るがま^ままに淡^{たん}々と受^うけ入^いれて生^いきる道^{みち}が、説^とかれていたのです。昭和^{しやわ}の激^{げき}動^{どう}の時代^{じだい}から比^ひべると、平成^{へいせい}は穩^{おだ}やかな時代^{じだい}のように感^{かん}

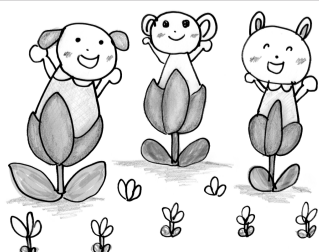
じていた愚僧^{ぐそう}ですが、少^{せう}子^し高^{こう}齡^{れい}化^か社会^{しやかい}が一^{いっ}層^{そう}進^{しん}み、賑^{にぎ}やかさの背^{はい}後^ごにし

のびよつてい^いる得^え体^{たい}の知^ちれな^い不安^{ふあん}を感^{かん}じる時代^{じだい}でもありま^ます。あり

あまるほどの自由^{じゆう}を享^{きやう}受^{じゆ}しながら、どうしようもなく窮^{きゆう}屈^{くつ}で、常^{じょう}に心

理的^り的^{てき}ス^スト^スレス^{レス}を感^{かん}じてい^いる若^わ者^{しや}が多^{おほ}いよう^うです。かつてない豊^{ゆた}かさ^{かさ}を享^{きやう}受^{じゆ}し、あらゆる珍^{めづ}らしいもの^{もの}が食^{しょく}卓^{たく}に並^{なら}ぶが、別^{べつ}に欲^ほしいもの^{もの}はな^いい。ネッ^{ネット}トで誰^{たれ}とでもつな^つがるが、本^{ほん}当^{たう}に信^{しん}頼^{らい}のおける仲^{なつ}間^{かん}が^いないとい^いう不安^{ふあん}感^{かん}だらけで、家^か族^{ぞく}や親^{おや}子^こ間^{かん}でも何^{なに}か大^{だい}事^じなものが壊^{こわ}れてい^いる時代^{じだい}だとし^したら寂^{さび}しいです^すね。平成^{へいせい}の次^{つぎ}の時代^{じだい}は、人^{ひと}間^{かん}が^あいあ^いえる信^{しん}頼^{らい}の時代^{じだい}にし^したいな。合^{がっ}掌^{しょう} (奥^{おく}原^{はら}曇^{とん}龍^{りゅう})

『春爛漫あつと言う間に花は散る 大地踏みしめ悔いなく生きよう』 どんりゅう



カット：奥原 綾

ともしび説法

日時・四月二十一日「日曜日」午前十一時から午後四時頃まで。
午前、ピアノ・マリンバ演奏 午後、法要儀式・仏教講演
場所・倉敷市早高426 新本堂 電話086-420-1311

ともしびを読みたい方、お寺についてもっと知りたい方 [心光寺 倉敷 検索](#)



お釈迦様ものがたり ③

三十五歳で覺りを開かれたお釈迦様が、説法(転法輪)を決心され、最初の説法をするのを初転法輪と呼びます。さとりは自分一人の中で完成するものではなく、他に伝え、他の人を救済することで、真のさとりが完成するので、説法には重要な意味があります。自らの救済から万人の救済へと、その目的が転換されてこそ、真のさとりと言えます。

転法輪の輪とは、インド古代の武器または戦車の車輪ですが、仏陀が法(教え)を説いて煩惱を打ち砕くことを、輪を転じて敵を降伏させることに例え、初めて法の輪を転じたということ。初転法輪と言ひ、法輪は仏教のシンボルになっています。

説法を決心されたお釈迦様は、自分がさとした教えを理解しうる者があるだろうかと思念するに、かつて師と仰いだアーララー・カラーマ仙人とウツダカ・ラーマプッタ仙人を思い浮かべました。しかし、二人はこの世にいませんでした。

次にかつて一緒に修行した五人の旧友を思い浮かべました。彼らは、お釈迦様が苦行を放棄したとき、墮落したと思ひ、お釈迦様のもとを去っていきましたが、今は、ベナレス郊外のサルナートにある鹿野苑で修行していたのです。お釈迦様は、彼らに会うために長いみちのりを歩いて行かれます。

ベナレスに向かう途中、ウパカという修行者に出会います。ウパカ(邪命教徒)は、お釈迦様の姿が清らかで尊いを見て、「あなたは何を目指して出家したのですか。あなたの師はだれですか。あなたは誰の教えを信じているのですか」と尋ねました。それに対してお釈迦様は、「私は一切に打ち勝った者、一切を知る者です。自ら知ったので、師匠は存在しません」と答えました。すると、ウパカは理解できず「そうかも知れない」と頭をふって去っていきました。合掌(奥原曇龍)

寺の庭名も無き花が咲き乱れ 春を喜ぶ命のともしび

田辺多恵子



3月7日のともしび説法

ともしび法話

春爛漫の季節。桜の花も満開です。道では小学一年生たちの元気な姿も見られますよ。皆様、いかがお過ごしでしょうか。

心光寺も春の永代経法要の準備で大変です。法要には、皆様是非お参り下さい。

心光寺坊守(ぼうもり) 奥原 博子

一人住まいの九十二歳の山口県の伯母が手紙を下さり、文通しています。四十過ぎの私の気持ちをいつも和やかにしてくれ、いつまでも元気でいてねと願う私です。

倉敷市茶屋町 渡辺 美鈴

四月二十一日(日)は心光寺の春の法要があり、楽しみにしています。午前は松本夫妻のチェロとピアノ演奏、柚木さんのマリンバ演奏と井上さんのソプラノ歌唱があり、午後からは法要儀式と仏教講演です。先祖を偲びつつ、今を大切に生きたいな。

倉敷市藤戸天城 福原 浩子

昨年七月の小田川の氾濫によって家屋が被災し、辛い思いで過ごしていましたが、今年四月には何とか真備に戻れそうです。

倉敷市 松下 勇一

ともしび説法

日時・四月二十一日「日曜日」 午前十一時から午後四時頃まで。
午前、ピアノ・マリンバ演奏 午後、法要儀式・仏教講演
場所・倉敷市早高四二六 心光寺(しんこうじ) 本堂にて
電話・(086)420-1311 駐車場有り

(宗派をとわず、まじめに人生を考えているあなたに参加していただきたいのです。)

○ともしび説法・お寺の行事予定

四月二十一日(日)・午前十一時から午後四時・永代経法要。
午前、ピアノ・マリンバ演奏、午後、法要儀式・仏教講演等。
五月十五日(水)・午後一時から午後四時・早高の本堂。

☆ともしび会は、月額五百円の会費制です。(賛助会員募集中)。
ともしび新聞を毎月発行し続けていますが、たくさんの方の費用がかかります。賛助会員になって下さる方があれば嬉しく思います。
会員には、ともしびを郵送させていただきます。(お電話下さい)

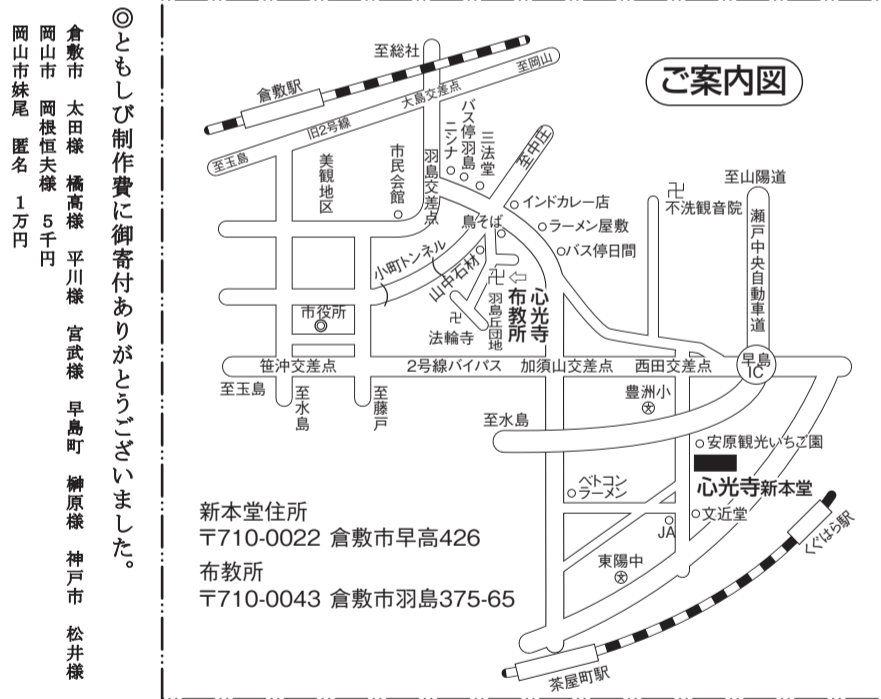


うたの詩

春風が心のとびらをあけるよ
やんわりと 山にも 小川にも
色々ないのちが吹きだして
ゆったり流れにまかせている
ええ格好して苦しむ若者よ
よそゆきの自分は捨てよう
花に学び 草に学ぼう



カット:吉岡美枝



◎ともしび制作費に御寄付ありがとうございました。
倉敷市 太田様 橋高様 平川様 宮武様 早島町 榊原様 神戸市 松井様 4千円
岡山市 岡根恒夫様 5千円
岡山市妹尾 匿名 1万円

浄土真宗の宗祖は親鸞聖人(しんらんしようにん)です。お葬式の時にあわてて葬儀屋さんに紹介してもらいより、自分でお寺は決めよう。

〒710-0022 倉敷市早高426
浄土真宗(じょうどしんしゅう)心光寺
TEL(086)420-1311 FAX 420-1322
携帯電話 (090)-2297-2504

★『ともしび』の毎月発行も、お陰様で「351号」となりました。心光寺は、誰でも気軽に来られる「心の雨宿りのお寺」を目標に頑張っています。4月21日の法要の日には、倉敷駅西ビル横の駐車場に10時、茶屋町駅西口に10時30分に、お寺より自動車でお迎えに行きます。車の送迎が必要な方はお寺まで、ご連絡下さい。合掌 心光寺 総代長 三村 健